

石神中学校だより 9号

発行日：令和4年 9月 2日

2022重点目標「自ら学び、共に高め合いながら夢の実現のために努力する生徒」文責：校長 佐藤恭司

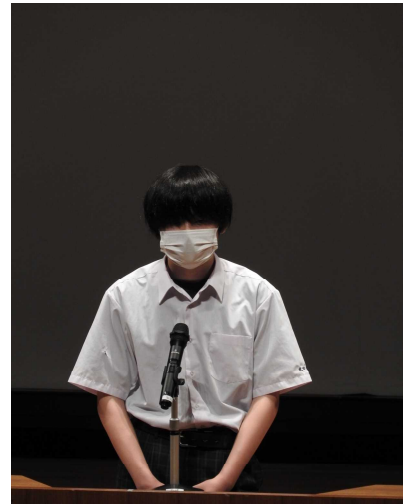
The 71th Junior High School English Speech Contest in Soma

8月25日（木）相馬市民会館を会場に「第71回相馬地区中学校英語弁論大会」が開催され、本校から暗唱の部に2年尾島望花さん、2年武田好誠さん、1年田邊優希奈さんが出場しました。3人は英語科の久保田広樹先生や伊藤はるか先生、ALTのチャールズ先生と夏休み期間熱心に練習に励んできました。緊張しながらも、英文の意味を理解し、自分の言葉で表現豊かに発表する姿は、多くの来場者から賞賛されていました。英語弁論大会を通して、相双地区の中学生らとの交流や英語の表現力を知ること、そして、自身の英語力向上に大きな自信につながったことだと思います。

尾島望花さん

田邊優希奈さん

武田好誠さん



2学年総合的な学習の時間“職業” 「看護師の仕事を知る学習会」開催！

9月1日、南相馬市健康福祉部健康づくり課と南相馬市立総合病院から3名の看護師さんらを講師に迎え、看護師の仕事を知る学習会を開催しました。今回の総合学習のねらいは「キャリア教育の一環として、看護師の仕事内容を理解するとともに生徒の社会的・職業自立に向けた基礎能力や態度を育てる」です。看護師さんの仕事内容の紹介や今年度新たに看護師になられた井戸川さんの体験談、そして妊婦体験や血圧測定など生徒が実際に体験することで、医療スタッフの方々の仕事の大変さを知ることが出来ました。日々、緊張感の中で、真剣に取り組む看護師の皆さん方の勇姿と患者さん方に真摯に向き合う姿が伝わってくる学習会となりました。



血圧測定の仕方を学ぶ生徒たち

「少年の主張」最優秀賞作品紹介1

第16回「少年の主張」南相馬市大会で、最優秀賞を受賞した3年生清信晴音さん(学校だより9号)と3年生石田来妃さん(学校だより10号)の作品を紹介します。少年の主張は、社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案、そして家庭・学校生活・社会・地域活動及び身の回りや友達との関わりなど、心に思い、考えていることや感じていることについて発表をします。



将来の自分に向けて

石神中学校 三年 きよのぶ はると 清信 晴音

「学校が嫌いだ。」いつしか僕は、こんなことを思うようになりました。

六年生の頃、僕は中学校生活を何よりも楽しみにしていました。みんなで協力し、優勝を目指して一生懸命練習に取り組む部活動。小学校よりもクラスの人数も増え、友達と笑い合い、時には共に泣くこともあったり、そんな楽しい日々が待っているのだと思っていました。しかし、僕を待っていたのは、想像していたものとは違った学校生活でした。大したやる気もなく、言われた通りの練習しかない部活動、会話についていくことすらままならない友人関係。僕の期待していたものがまた減ってしまうように思えました。さらに勉強もこれまでとは比べものにならないほど難しくなり、学校というものに裏切られたような不安を感じました。それでも、いつかはよくなると未来の自分に期待していました。でも、またもや現実とは甘くはなく、心を許せるような友達と出会うこともできず、部活動も本気で取り組むことができませんでした。

そして、僕はだんだんクラスの人達の話に入り込むことができなくなり、人と会話することに自信を失いました。それからというものの意識しないうちに人とのコミュニケーションを避けるようになってしまいました。そして、クラスの中でも少し浮いているような存在となりました。休み時間もほとんど読書することが多くなり、一人で過ごす時間が増えていきました。その時の僕は、全てがマイナス思考でした。「何をやってもきっとだめだ。どうせうまくいかない。頑張るだけ時間の無駄だ。」と考えてしまいました。その時、ある本を読んだことによって生き方を学ぶことができました。その本の主人公は、全て普通で大した特徴もない平凡な人間でした。その人は、他人に関心がなく、自分がよければいいというような考え方を持つ人でした。

僕は、最初はそれはただの自分勝手に傲慢な人物だと思っていましたが、彼の言った言葉で心に響いたものがありました。それは、「最低限の努力もしない人物に、努力している人の気持ちはわからない。」という言葉でした。この言葉から今の自分は、環境に慣れようと努力もしないで言い訳だけをして現実から逃げようとしている姿に見えました。僕は今まで何をやってきたのだろうか、何を考えていたのかと強く胸を突かれた思いでした。それからは、人とのコミュニケーションがとれるよう努力しました。家では、対人会話のコツや話している内容を盛り上げる方法などを覚え、学校では、挨拶を明るく元気にするように心がけ、良い印象を与えられるよう頑張りました。初めは、うまく相手と話すことができませんでした。しかし、会話を重ねるたびに感覚でうまく話題を繋げられるようになり、周りからは、明るい印象になったと言われるようになりました。それからは、だんだん自分に自信がもてるようになってきました。また、勉強や部活動も両立でき、充実した学校生活を送られるようになりました。

今では、生徒会長に就き、毎日「朝のあいさつ運動」をはじめ、他の生徒会役員のみならず学校がさらにより良い場所になるよう活動に励んでいます。一冊の本の中の主人公のあの「言葉」のおかげで僕は、自分を見つめ直すことができ、自分の可能性を見出すことができました。三年生になってから、受験へ向けての日々の勉強や生徒会活動も大変になってきましたが、諦めないで努力をしていきたいです。それでも辛くなって逃げ出したいくなるような時にはあの「言葉」を思い出し、自分を信じて一步一步前を向いて更に新たな自分に挑戦していこうと考えています。そして、将来自分も社会に貢献できるような人になりたいです。

